



1. 土木技術者にはアイデアがない？
2. 東京の空・大阪の空
3. 学生デモと都市鉄道

1. 海洋開発が脚光を浴びている昨今である。科学技術庁では、長期開発計画策定のため、関係各方面からアイデアを求めて、すでに素案を作成している。原子力、宇宙開発に続く第三の巨大科学という触れ込みであるが、相変わらずアメリカの尻馬に乗って駆け出した感が強い。それはともかく、現在考慮されている海洋開発の課題を見ると、土木技術者の中から出たと思われる構想が全く見当たらないのははなはだ奇異である。海洋工学という言葉が顔を出してはいるが、中味は他の課題を実現するために必要と考えられる付随的な手段に過ぎない。

工学は科学と違って、元来、経済活動の手段として成立ったものであるし、土木技術となればさらに具体的な目的からはずれることは許されないであろう。しかし、このことは、土木技術者の発想が限定されるべきだということにはではないはずである。宇宙などよりもずっと身近で国土の延長でもある海洋の開発計画に当って、未来を創造するエンジニアの中から、道路をつくる目的のための土木技術の開発程度のアイデアしか出てこないでは、いささか物足りないとはいえまいか。

[S]

2. 「東京の空」・「大阪の空」というと歌謡曲の題名のように、ロマンチックな文句が続いて出てきそうであるが、明治百年の現在、この空は病人の死期を早め、四日市ゼンソクで知られているような特殊な病源にもなっている。

大阪市総合計画局の最近の発表によると、大阪市の大気汚染被害額は何と160億円（家計被害約130億円、企業被害額約30億円）、全国では莫大な汚染被害額になろう。またこのような空の汚染と平行して、河や海の汚染の進行も著しい被害を与えている。このような時点で、何とか公害基本法が成立したが、遅きに失したとはいえないよりまし…。と同時にその汚染を発生せしめる企業側も、また監督者となる官公庁も、「環境工学」の新しい分野を十分に理解し、その専門家の養成に十分協力して欲しいものだ。

[C]

3. 10月21日国際反戦デーにおける反代々木系全学連のデモで新宿駅付近は一時大混乱になり、一部野次馬の群集心理も加わって駅および付属設備はかなりの被害を蒙った。この被害の影響は翌日までおよび、国電がラッシュ時に運休したため、朝の通勤戦線に大混乱が生じたほどだった。

最近学生デモは過激化の傾向があり、デモのたびに警察の機動隊と激しい衝突を繰り返している。双方衝突のたびに武装に知恵を絞っているようであるが、なんといっても学生側の主武器？は石ころであって、その最大の供給源は鉄道の道床バラスである。

土木屋の立場からみると、この道床バラスは鉄道の基礎として誠に合理的であり具合の良いものであるが、デモにおいても誠に役に立つものであるとはおそらく想像しなかったであろう。デモにおける当時者同志の石合戦はもとより、流れ弾による付近第三者の迷惑はいただけるものではない。郊外においてはともかく市街地における鉄道はすべて地下鉄道にするべきであると考えが如何だろうか。デモが盛んになると土木屋が忙しくなるということか。

[J]